

着た人に喜んでもらえるものづくり。

川月 佐予

企画室長



もっと生の声

Q & A

— 一番嬉しかったことを教えてください。

自分の手掛けたヒップボーンデニムがヒットしたことですかね。みんなで試行錯誤しながらつくり上げたのですが、「流行をつくった!」と思えるまでにヒットした時の喜びと達成感はとても大きかったです。多くの人その商品を着て街を歩くのを目にして、その後の仕事に対する励みにもなりました。

— 印象に残っているエピソードを教えてください。

弊社の服をよくご購入いただくお客様がいたのですが、本当に好きすぎて、今では弊社のスタッフになっていただいています(笑)。それぐらい愛される服を作っているんだなあ、感慨深いものがありました。

— どのような人と一緒に働きたいですか?

やはり服が好き、服作りが好きの人と一緒に仕事がしたいですね。その中でもドミンゴの服が好きな方であれば、なお嬉しいです。好きな服に囲まれながら、一緒にものづくりを楽しみましょう。



「私とドミンゴとの出会いは、学生時代にアルバイト先でドミンゴの製品に触れたことでした。そこから児島のジーンズや加工したパンツの魅力を知り、この会社の服作りに携わりたいと強く思い入社しました。」

川月さんは入社後、レディースの企画、パタンナーなどを経験し、現在は企画室管理、OMNIGODブランドの企画アシスタントを担当されています。

以前、新たに工場が一つ建つまでのヒット商品を生み出したこともある川月さんが心掛けているのは、「カタチにとらわれないものづくり」。時代の波の影響が濃くなっている今だからこそ、あえてこだわりだけでなく柔軟にもものづくりをしていくことを忘れないようにしているそうです。

大切にしているのは、着た人に喜んでほしいという思い。「街中でこれほど服があふれている中で、自社の洋服を着ている人を見かけると本当に嬉しいです。自分達が手掛けた服を、たくさんある中から選び着てもらえる。それって、本当にすごいことですよ。」

